



鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『人の子は失われたものを

捜して救うために来たのである』

聖書(ルカ福音書 19 章10 節)

牧師 河合裕志

イエスが緑豊かなエリコの町に入り通って行くと大勢の人々がイエスを二重にも三重にも取囲んだ。高名な先生を一目見ようと。一足遅れてザアカイがやって来る。彼は徴税人の頭で金持ちだった。

彼は「イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので群衆にさえぎられて見ることができなかった」。彼なりに試みた。懸命に爪先を立てて背伸びしたり、スキを見て少しでも前の方に行こうとしたり。

「すみません、一寸前に行かせて下さい」、こんな願いはたちどころに却下。詐欺師、売国奴とみなされていた徴税人は皆んなから嫌われていた。

こんな彼は人生の悲哀を感じていたかも。お金は充分過ぎる位あるのだけれど、大きな家を構え、おいしいものを口にしているのだけれど、どこか満たされない。欠けが感じられる。それは矢張り町の人々とのつきあいが無いということ、孤立感ということ。尊敬されず軽蔑されていること。アクドイことをやっているから自業自得かなといった思いも。

こんなところからイエスを見たいと思ったのでは？ この人に救ってもらいたい思いもあったかも。北の町に住む徴税人レビ

がイエスの弟子になったという風の便りもザアカイに届いていたか。

一目見たい！ この願望は彼がイエスの来る道先回りして、いちじく桑の木に登ることによって達成された。いい大人が小太りの男が木によじ登る。恥も外聞もなく。やがて「イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。『ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日はぜひあなたの家に泊まりたい』」。この一方的なウムを言わせない申出に彼はどう反応？

「ザアカイは急いで降りて来て喜んでイエスを迎えた」。そして彼は言う。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。まただれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します」。これは大変な決心。イエスの来訪によって自己中心の固い殻が見事破られ貧しい隣人が見えて来た。

イエスのプレゼンス(存在感)はスゴイ。イエスが一言も言わないのにこの大変化。イエスはニッコリして言った。『人の子は失われたものを捜して救うために来たのである』。人の子とはイエスのこと。私達もイエスを迎えたいもの、そして他者の存在に目が開かれないもの。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

英語聖書を読む会：日曜日午前9時半

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時